

# 大川村・高齢者の暮らしを支える 物流ネットワーク構築モデル事業

＜実施報告＞



★ 高知県大川村

# 1. 大川村の概況

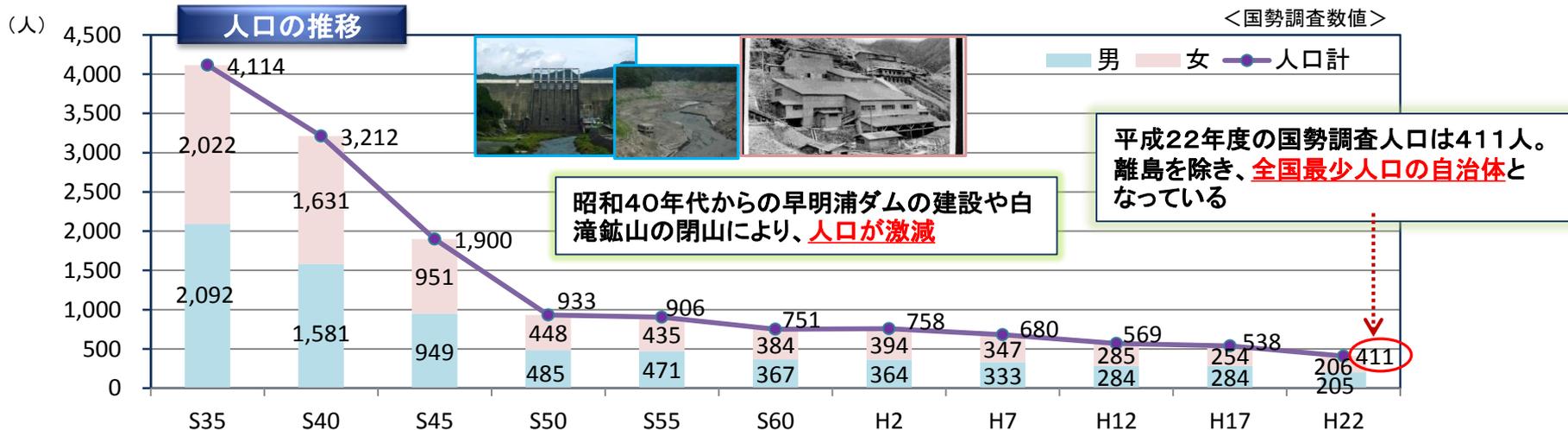
大川村は、四国山地の中央部、高知県の最北端に位置し、東西15.5km、南北9.4km、面積は95.27km<sup>2</sup>で、北は愛媛県に接している。村の中央を吉野川が貫く形で東西に流れ、村の約9割は険しい山地となっており、平坦地が極めて少ない山村である。

昭和40年代からの早明浦ダムの建設や白滝鉱山の閉山による人口流出、基幹産業である林業の低迷、さらに過疎化・少子高齢化の影響等で村の人口は411人と、現在、**離島を除き全国最少人口の自治体**となっている。

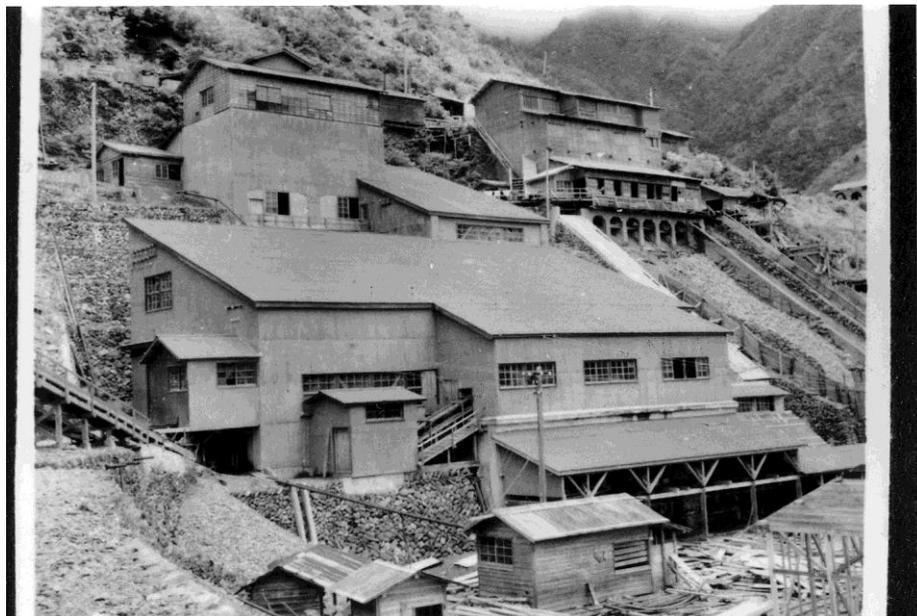
将来にわたって村を存続していくためには、一次産業を中心とした産業振興による雇用創出などの人口減少対策が喫緊の課題である。



人口	高齢化率	世帯数	村予算	基幹産業	児童生徒数
411人 (H22国勢調査)	45.2% (H27.4末現在)	229世帯 (H27.4末現在)	1,590百万円 (H27一般会計当初予算)	一次産業 (農業、林業、畜産業)	34人 (うち山村留学生13人) (H27.4.1現在)



# 白滝鉱山閉山以降の大川村の沿革



**昭和47年**

**白滝鉱山  
閉山**



# 早明浦ダム完成

昭和50年竣工



# 大川黒牛生産



# 土佐はちきん地鶏の本格生産開始

(平成21年)



# 大川村謝肉祭 30周年 (平成25年)



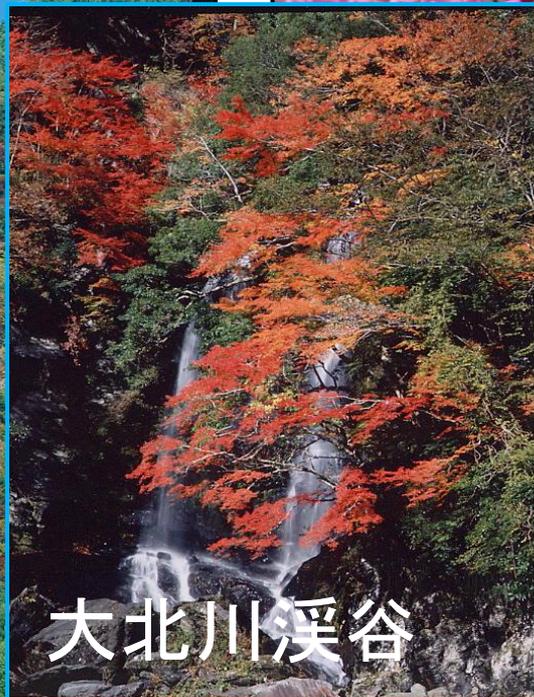
# 人気観光 スポット



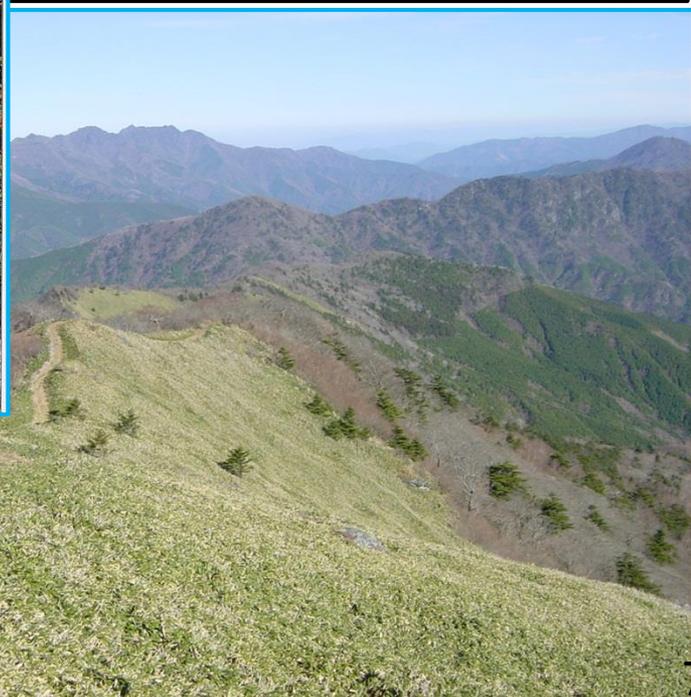
アケボノツツジ



小金滝



大北川溪谷



平家平

## 2. 生活環境の現状と課題

### 現状

#### 移動（交通）手段



- ◆民間事業者の運行バス
  - ・土佐町～大川村～いの町（本川） 1日3～6便
- ◆福祉バス（普通1台、軽3台 計4台）
  - ・あったかサービス（デイ等）との併用
  - ・登録制で事前の予約により運行、基本は平日
- ◆診療所送迎バス（10人乗り1台）
  - ・週3回（火、水、金）、集落ごとに運行
- ◆タクシー事業者
  - ・村内になし
- ◆スクールバス
  - ・行きは小中学校一緒に、帰りは別々に送迎



#### 生活物資

- ◆商店
  - ・3店（JA1店、民間2店）、コンビニはなし
- ◆移動販売
  - ・2店（JA、民間）が運営
- ◆宅配
  - ・民間2業者が村内へ配送



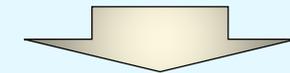
### 課題

- 現行の路線バスは、幹線のみ  
の運行であり、利便性が悪い
- 高齢化の進行により、車の運  
転ができない高齢者が増加し、  
足の確保が必要



**集落間の運行など、より利便性の  
高い移動手段の確保が必要**

- 村内には商店が少なく、コンビ  
ニもない
- 今後の商店の存続や末端集落  
への配送サービスは不透明



**高齢者等のニーズに合った買い  
物支援、物資配送等が必要**

# 3. モデル事業の概要

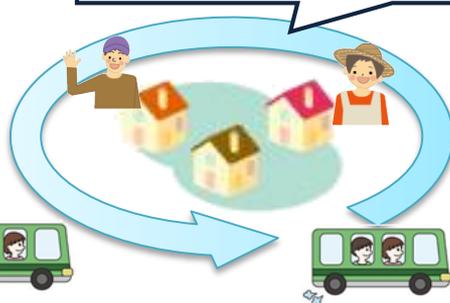
- 買物代行（注文商品の配送）
- 買物送迎
- 配食サービス

村民は、上記のうち利用したいサービスを前日までに役場へ連絡



利用者

買い物希望者の迎え  
役場を出発し、集落を巡回して人を乗せる



商店での買い物、注文商品の積み込み



村内商店

商品の注文

弁当の注文



村内食堂

弁当の調理

注文の弁当の受け取り  
食堂で調理した注文の弁当を受け取る

買い物者の移送、注文商品及び弁当の配送

商店で買い物した人を自宅へ送るとともに注文商品、弁当を配送



人と物を同時に運送

集落支援員等

役場



# 4. モデル事業の利用実績

## 利用実績

月日	利用者		
	送迎	買い物代行	配食
12月7日(月)	1		
12月8日(火)	0		
12月9日(水)	0		1
12月10日(木)			3
12月11日(金)			
12月14日(月)			
12月15日(火)	3	2	
12月16日(水)	4		1
12月17日(木)	1		3
12月18日(金)	2		
12月21日(月)			
12月22日(火)	4		
12月23日(水)			1
12月24日(木)	3		2
12月25日(金)	3	2	
小計	21	4	11
計	36		

- 本モデル事業については、トライアル期間が1ヶ月と短く、また全村民に対しての周知が足りていなかった。また、買い物代行については、村内の個人商店が12月末で移動販売をやめることも重なり、最後にこの個人商店を利用しようとする村民も多く、予想以上に利用者が少なかった。
- 送迎については、デマンド方式を追加することによって、一定利用者があった。利用者からは、公共交通(バス)を利用したいが、路線がないことや、時間等の不満が聞こえてきた。
- 配食サービスは、自分で料理を作れない方や、高齢者を中心に利用があった。今後、高齢化が進み、独居老人も増えていくことが予想されることから、配食は必要なサービスと考えられる。

# 配食サービスの内容



# 5. 事業実施後のアンケート結果と考察

当モデル事業に関するアンケートの回答者は20名

- このうち、当モデル事業の利用者は15名（男性4名、女性11名）、非利用者は5名（男性2名、女性3名）

- ・利用したサービス内容：買い物代行2名、買物送迎10名、配食サービス4名

➡ 買物送迎の利用が多いことから、自分自身で品物を見定めたい人が多いと考えられる

- ・利用者のうち、12名が60歳以上。普段自動車を運転している人は6名

- 普段の日用品や食料品の調達について（回答者全体）

- 利用者：村内商店が19%、村外商店が25%、移動販売利用が38%

- 非利用者：村内商店が22%、村外商店が34%、移動販売利用が33%

➡ 村外への買い物や移動販売の利用も多い現状

- 日常の買い物に対する不便や不安について（回答者全体）

- ・感じている人が50%以上（内容：買い物に行くのが難しい、欲しいものを調達できない等）

- 農産物の生産について（回答者全体）

- ・生産している人が12名（60%）、出荷している人は0名

➡ 農産物は自家消費

- 宅配便の利用について（回答者全体）

- ・普段から利用している人が発送は6名、受取は5名

➡ 宅配便の利用はそれほど多くはない

- 人と荷物の輸送を1台の同じ車両で行うことについて（回答者全体）

- ・16名が支障なし

➡ 貨客混載への抵抗感はないと考えられる

- 物の調達や配送などで困っていることや要望について（回答者全体）

- ・村外（土佐町、西条市、高知市など）へ買い物に行けるサービスが欲しい

➡ 村外への買い物利用便の希望が多い

- 当サービスへの不満・改善点について（回答者全体）

- ・運行頻度：土日もやって欲しい

- ・運行時間帯：夜に行けない。仕事中に受け取れない

➡ 臨機応変なサービスを期待している

- 今後こうしたサービスが継続されたら利用したいかについて

- ・利用者：利用したい11名、改善によって利用したい5名、将来的に必要3名、特に必要ない1名

- ・非利用者：改善によって利用したい2名、将来的に必要3名

➡ 当モデル事業で行ったサービスへの期待が大きいことが窺える

- 当サービスが有償の場合のサービス料について（回答者全体）

- ・安ければ利用する75%、800円～1千円なら支払可能6%、500円程度13%

# 6. 今後の事業の方向性

## 大川村生活支援ネットワークの構築（案）

- 大川村集落活動センター結いの里を起点として県道17号線及び大川村内の集落を循環するバスを運行
- 人の移送と併せ、村民の希望に応じて、①買い物代行、②買い物送迎、③配食、④農産物の集荷など、人と物を同時に運送する複合的な生活支援サービスを実施



# 小さな拠点「大川村集落活動センター結いの里」の概要

## 機能1

### 食の提供

学校給食（大川小中学校）

保育園給食（つぼみ保育園）

高齢者等配食（デイサービスの食事含む）（村民）

食堂（観光客等）

憩いの場（村民等）



## 小さな拠点

人と人、集落と集落、村と外とのつながり「結い」の拠点

### 大川村集落活動センター 結いの里

#### 活動拠点施設



旧「村のえき」（元保育所）



「総合福祉センター」



各部落「集会所」



「小松診療所」

村内各施設と連携

## 機能3

### 農産物・特産品等の販売

村内で生産された農林産物・特産物の加工・販売

- ・土佐はちきん地鶏、大川黒牛（生肉、加工品）
- ・地域の伝統的産品
- ・野生鳥獣肉（シカ、イノシシ）
- ・野菜、山菜、花卉、木製品 等

食鳥処理・加工場  
(H28建設予定)

## 機能4

### 観光・交流の情報発信等

- ・山岳・ダム湖面等を活用した観光・交流の取り組みの情報発信、案内窓口
- ・大川村ファンづくり（SNS、インターンシップ等）
- ・移住支援（空き家・耕作放棄地の把握、情報提供等）



「自然教育センター白滝」

## 機能2

### 生活物資の提供（買い物支援）

商店・コンビニ的機能  
(食料品、日用雑貨の販売)



生活用品・農産物等の配送・集荷



商品の集荷

JA  
地元商店

店舗への  
立ち寄り

循環バス  
(診療所バス、福祉バス)

(診療所バス、福祉バス)

各家庭へ

農産物の集荷

#### <運営主体（運営組織）>

大川村集落活動センター結いの里運営協議会

#### <運営体制（構成団体等）>

- ・地域住民（部落自治会、青年団、農業集団、PTA等）
- ・一般社団法人大川村ふるさとむら公社
- ・株式会社むらびと本舗 ・大川村社会福祉協議会
- ・JA土佐れいほく大川支所 ・大川小中学校
- ・大川村森林組合 ・協同組合木星会 等

#### <運営事務局・サポート>

- ・一般社団法人大川村ふるさとむら公社
- ・地域おこし協力隊、集落支援員 等

村民や関係団体等が一体  
となった村づくり

## 機能5

### その他の生活支援

- ・高齢者の見守り、居場所づくり
- ・緊急時の送迎、よろず相談
- ・飲料水等供給施設（水道等）の維持管理
- ・野生鳥獣防止対策（防護柵の設置等） 等

# 事業の継続の可能性について

- 今後は、少子高齢化が進むことが予想され、また、村内個人商店についても、高齢化と後継者の問題から、商店の維持存続は困難であると予想される。公共交通についても、利用者の需要と現在の公共交通網における需要と供給のミスマッチがある。また負担金等の財政負担が懸念される。
- 高齢者の配食サービスについては、現在も大川村と社会福祉協議会が一体となり、現在も継続して実施している。
- 今後は、平成27年度に設立した「大川村集落活動センター結いの里」が中心となり、「住民」、「民間事業者」、「行政」の協働による新たな物流、人流の仕組みを構築していく。
- 「大川村集落活動センター結いの里」は、平成28年度から地産地消をテーマに学校給食を実施していく。その中で、村内各農家への集荷と集荷時における住民の買い物要望への対応、公共交通の見直しにより、「大川村集落活動センター結いの里」が中心となった、地域住民の要望にできるだけ応える公共交通体系の構築を実施し、大川村の実情に応じた貨客混載を実施することにより、住民サービスの向上を目指す。